論文題目

かかりつけ薬剤師へのジョブ・クラフティングを促進する要因：組織や職業へのコミットメントを中心にして

論文要旨

本論文は、日本の医療制度において新しい役割として設定された『かかりつけ薬剤師』を中心に、役割外行動、職務再設計、ジョブ・クラフティングなどの組織行動論の概念を用いて、一般とは異なる専門職としての薬剤師の行動の理解とその業務の推進に必要な要因を探るものである。薬剤師には国の進める地域包括ケアシステムへの対応を行う『かかりつけ薬剤師』となり、そのかかりつけ薬剤師業務の推進を通じて、患者からの信頼を得ることが求められているが、かかりつけ薬剤師業務を行うためには、薬剤師もこれまでの薬剤師業務からの脱却が必要であり、これまでと異なる新しい役割の取得を行うための行動の改善が必要である。その行動の改善を後押しするものとして専門職である薬剤師においてのジョブ・クラフティングが考えられる。かかりつけ薬剤師となるためにうまくジョブ・クラフティングが行えている薬剤師とそうでない薬剤師の違いを埋めるべく、ジョブ・クラフティングの促進要因を特定することができれば、薬剤師の積極的な行動を引き出す施策につながるのではないかと考えられる。そうしたことが、薬局の経営管理としても重要であるというものである。

論文内容の要旨は以下の通りである。本論文は全8章で構成される。

第1章では、かかりつけ薬剤師への取り組みの差や薬局の経営管理の説明を行った。

第2章では、問題の所在として、現在、薬剤師に求められることとなった新しい役割を中心に、本論文の課題とリサーチクエスションについて記述している。

第3章は、組織行動論における各概念の先行研究についての文献レビューである。まずかかりつけ薬剤師としての業務に含まれると考えることができる『役割外行動』について、そして薬剤師間における取組状況の差の原因なのではないかと考えられる『ジョブ・クラフティング』について、つぎに『専門職』としての薬剤師の在り方との関連性を検討し、また薬剤師におけるジョブ・クラフティングについてもレビューを行った。

第4章においては本論文の分析枠組みと仮説を提示した。そして第5章は本研究における背景をリサーチコンテキストとしてまとめている。筆者は薬剤師であり、30年近く調剤薬局を経営している。背景として、薬剤師の置かれている立場、データ、資格の歴史や今後について、そして業界の特徴や薬剤師のマインド、最後にかかりつけ薬剤師とその業務についてまとめたものである。

第6章・第7章は、既発表の論文である。第6章は、薬剤師の組織コミットメントと職業コミットメントについて、かかりつけ薬剤師と非かかりつけ薬剤師の比較を行っており、第7章は、薬剤師のジョブ・クラフティングについて述べている。

そして、第8章では本論文の結論として、発見事項と実務へのインプリケーションを述べた。